

2024年度  
貝塚公民館のあゆみ  
～人と人、地域をつなぐ公民館～

貝塚市立中央公民館  
貝塚市立浜手地区公民館  
貝塚市立山手地区公民館

## 「2024年度貝塚公民館のあゆみ」発刊によせて

このたび、令和6（2024）年度における貝塚市内三館（中央公民館・浜手地区公民館・山手地区公民館）の講座や事業などの取り組みをまとめた『貝塚公民館のあゆみ』を発刊できますことを、大変うれしく思います。本誌には、各公民館が地域の皆さまと共に築いてきた一年間の「学び」と「交流」の記録が詰まっています。

令和6年度は、地域社会がコロナ禍からの回復を経て、あらためて「学びの場」や「人と人とのつながり」の大切さを実感する一年となりました。私たちは、公民館の基本理念である「市民の自主的な学びと地域づくりの推進」を再確認しながら、働く世代を対象としたエクササイズ講座や「つるかめ大学」をはじめとする高齢者向けの講座、子どもたちが大人と交流しながらさまざまな体験ができる「夏の子ども講座」など、世代を問わず多様なニーズに応える講座・事業を展開してまいりました。

世代を超えた交流、高齢者の生きがいつくり、子どもたちの体験学習などを通じて、多くの「学び」と「つながり」が生まれたことは、公民館の大きな成果のひとつであると感じております。

地域に根差した公民館活動は、参加される皆さま一人ひとりの熱意とご協力によって成り立っており、その積み重ねが人と人とのつながりや地域の絆を深める大きな力となっています。ご協力いただいた講師の皆さま、クラブ協議会をはじめとする団体・サークル、地域の福祉施設の皆さまなど、すべての関係者の皆さまのご尽力に、心より感謝申し上げます。

さらに本年度は、社会全体で「健康寿命」や「ウェルビーイング」（心身ともに、そして社会的にも満たされた状態）の重要性が注目される中、公民館運営審議会より、これまで貝塚公民館が積み重ねてきた実践を再評価するとともに、社会の変化や動向を踏まえた上で、今後の活動のあり方や目指すべき方向性について見解をまとめた答申をいただきました。

この答申を今後の活動に活かし、地域の皆さまと共に歩み、共に学びながら、より良い公民館づくりに邁進してまいります。

今後とも、変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます、『貝塚公民館のあゆみ』発刊のごあいさつとさせていただきます。

中央公民館長 甲斐裕二

# 令和6年度 貝塚公民館 事業総括

## はじめに

本年度の貝塚公民館は、日本国憲法・教育基本法及び社会教育法の理念はもとより、本市が策定している「第5次貝塚市総合計画」及び「貝塚市教育大綱」、また、教育委員会が定めた「令和6年度教育努力目標」を踏まえ、次の6点を事業展開の基本とした令和6年度貝塚公民館事業方針に基づき、中央・浜手地区・山手地区各公民館（以下、「各館」という）において重点目標を掲げ、多様な講座や事業を展開した。

また、本年度各館で取り組んだ講座事業について事業別に状況・成果・課題をまとめ総括した。

- ・感染症対策を含め、常に安全・安心を考えた事業に取り組む。
- ・市民が主体的に参画する講座・事業を実施し、市民の自主的な学びを支援する。
- ・公民館が実施するあらゆる講座・事業を通じてSDGs（持続可能な開発目標）の啓発と人権意識の醸成に努める。
- ・Wi-Fi環境を利用してオンラインでも参加できる講座を実施することにより、誰もが気軽に参加できる学習機会を提供し、新たな公民館利用者を開拓する。
- ・関係機関と連携を深め、地域の情報把握に努め、地域の実情に応じた学習課題を発掘する
- ・SNSなどあらゆるメディアを活用して、公民館からの情報発信をさらに進める。

## 1. 公民館主催事業

### ① 青少年対象事業

#### <状況・成果>

今年度も公民館クラブやサークルなどの協力を得て「夏の子ども講座」を開催、3館で51講座実施し、延べ673人の子どもたちが参加した。その他、料理講座など青少年対象の講座・事業を実施、子どもたちが大人と交流しながら様々な体験、学習ができる場をつくった。

#### <課題>

- ・子どもたちが参加したくなるような魅力ある講座・事業の企画と、ICTを活用した広報。
- ・子どもたちが様々な体験、学習を通して生きる力が身につけられるよう、異世代間の交流・協働をすすめる。
- ・音楽やダンス、ボランティア活動など、青少年の自主的な活動に公民館が利用できることを広く知ってもらおう。

### ② 子育て支援事業

#### <状況・成果>

今年度も3館共通で実施している保育付き講座や、各館で工夫を凝らした特色ある子育て支援講座を子育てグループや図書館、健康推進課、子育て支援課など関係課と連携して実施し、子育て中の親の居場所や交流の場を作り、子育ての悩みや疑問、子育てに関する情報を共有することができた。

#### <課題>

- ・親子が安心して受講できる講座の環境づくり。
- ・父親やファミリーが参加する講座・事業の実施。
- ・より多くの親子が受講するよう、講座の宣伝方法を工夫する。
- ・地域において子育て支援活動に取り組む人材の育成。

### ③ 成人対象事業

#### <状況・成果>

各館において若年層、男性、勤労者など、日頃、公民館活動に馴染みが薄い市民の取込みを目指して、テーマや開催時間に工夫を凝らした講座を開催、三館の地域性、独自性を生かし、多様な学びの

場を提供してきた。

高齢者を対象とした講座では、近年、「健康寿命」が注目される中、高齢介護課との共催により、介護予防の取組みとして運動系講座や食に関わる講座、認知症の予防につながる講座などを開催した。

<課題>

- ・社会の変化により生起する様々な課題を反映させ、常にSDGsの実現や人権を意識した講座やイベントを実施する。
- ・若年層や勤労者が公民館活動に興味を持てる事業の企画と新たな参加者の発掘。
- ・新規講座終了後のクラブ化を促進する自主学習の場の拡大。
- ・デジタルデバイドの解消を目的とした講座、及び、オンラインを活用しリモートでも受講できる講座の実施。

#### ④ 共生社会づくり事業

<状況・成果>

各館において、主に在住外国人を対象とする「日本語会話よみかき教室」や障がい者を対象とする「ふれあい料理」「ホッとワーク」などの講座を実施し、協力するボランティアや公民館クラブのクラブ員が、講座での関わりを通じて共生社会づくりへの理解を深める機会となった。

また、中央公民館の「介護について語り合う場」は、当事者同士が安心して悩みを語り合うことができる場となった。加えて、今年度は学習グループ連絡会の協力を得て、悩みや生きづらさを抱える人たちがつながれる場づくりを考える講座「居場所をつくる」を開催した。

<課題>

- ・講座に限らず、あらゆる機会を通じ人権や多様性社会への理解を深める。
- ・共生社会づくりに向け、地域社会にどのような課題があるのか把握し、講座に反映していく。

#### ⑤ 文化振興事業

<状況・成果>

浜手地区・山手地区各公民館ではロビーやホールを活用し、市民が企画に参画する「アフタヌーンコンサート」や「ロビーコンサート」を定期的に開催した。中央公民館では、毎年好評を得ている「ジャズライブ」などのコンサートを実施し、公民館育成団体が行うイベント・作品展示を支援した。

また、中央・山手地区各公民館では、グランドピアノ、コンサートピアノを市民に開放するイベントを実施し、幅広い世代がピアノに触れる機会をつくった。

<課題>

- ・クラブ・市民グループ等の発表や広報の場となるよう、ロビーやホールを活用した公民館育成団体のコンサート、作品展示を引き続き支援する。
- ・若年層が参加できる幅広いジャンルの芸術、文化にふれる機会の創出。

## 2. 人材養成事業

<状況・成果>

「日本語会話よみかき教室」および各館の料理・保育などのボランティアは、スキルアップを目的とした研修や交流会を通じて交流を深めるとともに情報交換を行い、講座や保育が充実したものとなるよう様々な工夫をした。

また、新規の保育ボランティア、あそびボランティアの獲得に向けて、保育ボランティア養成講座、シニアを対象とした昔あそびの体験講座を実施し、少数ではあるが、新規ボランティアを獲得できた。

<課題>

- ・三館ボランティアの主体的運営と交流・情報交換の場づくりに対する支援。
- ・各ボランティアの新規メンバー獲得。

- ・地域の町会、老人会などの団体による「まちのすぐれもの」登録者の講師活用を促す。
- ・地域コミュニティ活動に参画できる人材の育成。

### 3. 地域連携事業

#### <状況・成果>

今年度も地域で活動するグループや校区福祉委員会、福祉施設等と連携し、講座や講演会、展示会などの事業を実施した。

「公民館まつり」は、公民館の活動を広く地域の人々に知ってもらう機会であるが、地域の団体が参加し、子どもたちが多く集まる賑やかなまつりとなった。

また、町会・老人会など地域の団体からの要請に基づき実施している移動公民館や地域出前講座、ボランティアや公民館クラブなどの団体が学校や地域の福祉施設などに出向いて行う活動も実施回数が増えてきた。

#### <課題>

- ・公民館クラブ、サークルなどが、地域に出かけて活動することを支援していく。
- ・移動公民館、地域出前講座を周知し、実施地域を拡大していく。
- ・地域課題解決のために地域で活動する市民・団体とのつながりを築く。

### 4. 団体支援事業

#### <状況・成果>

今年度も公民館活動において中心的な役割を果たしている各館のクラブ協議会をはじめ、公民館活動から生まれ育った「貝塚ファミリー劇場」「貝塚子育てネットワークの会」「学習グループ連絡会」「あそび隊」や各文化団体の活動を支援した。しかし、いずれの団体も高齢化やメンバーの減少が顕著であり、組織運営を巡る状況は厳しく、今後のあり方が問われている。

#### <課題>

- ・各々の団体の活動をいかんにして次世代へと繋いでいくか。
- ・新たな自主学習活動グループの育成を行う。
- ・学びの成果を地域社会に還元することにより、社会貢献できるよう支援していく。

### 5. 三館連携事業

#### <状況・成果>

「第13回貝塚公民館大会」(テーマ:年の差フレンズが未来をつくる)を浜手地区公民館で開催した。大会には公民館利用者をはじめ、140人(オンライン参加の8人を含む)の参加があった。講演は、脳科学の観点から世代間交流や子どもを中心に据えた地域づくりの意義を考える斬新な内容で、科学的視点から公民館活動を考える機会となった。続く第2弾では、岡山県真庭市立中央図書館の取組み事例や「トークフォークダンス」の体験を通じて、世代間交流の実践を学んだ。

「しゃべり場★公民館」では、市民が主体的に市について興味を持ち考えられるよう「公共施設等総合管理計画」を読む講座を実施した。

#### <課題>

- ・三館連携事業を通じて、より多くの市民に公民館活動を知ってもらう。
- ・「しゃべり場★公民館」は、場のあり方や活動の方向性を再確認する。